ローンマスター
金利引き直し計算

ヘルプガイド

目次

■ はじめに ========== 4
■ ローンマスター / 金利引き直し計算 ========== 5
■ 計算方法 (概略) ========== 6

金利引き直し計算の操作要領

■ 全体操作概略 ========== 8
■ 基本項目入力 ========== 10
■ 貸付(借入)分入力操作 ========== 13
■ 返済分入力操作 ========== 14
■ 計算結果表示　画面操作 ========== 15

日割り金利計算

■ 日割り金利計算 ========== 17

融資返済計算

■ 融資リクエスト試算 / 回数指定 ========== 18
■ 借入可能金額(元利均等払)割出し ========== 19
■ 融資返済計算(詳細計算) ========== 21

ファイル操作

■ ファイルの読込と保存 ========== 26

設定

■ 設定 / 表示関連
- 年月日表示 ========== 27
- 返済日の銀行営業日変換 ========== 28
- スタンス ========== 28
- 期間表示 ========== 28

■ 設定 / 印刷関連

- 余白の設定 ========== 29
- 印刷での債務者名表示 ========== 29
- 印刷での債権者名表示 ========== 29
- 計算表での表示印刷 ========== 30

■ 設定 / 計算関連

- 同日の貸付・返済順序 ========== 32
- 金利計算の円未満処理 ========== 32
- 閏年対応 ========== 32
- 貸付日(借入日)算入 ========== 33
- 利息制限法対応 ========== 34
- 利息制限法対応年率 ========== 35

■ 印刷

- 印刷形式 ========== 37
- 印刷プレビュー ========== 39

■ 付属ソフト

- ＭＤ電卓 ========== 40
- ＭＤタイマーSX ========== 41

■ インストール

- インストール要領 ========== 42
- インストールのエラー ========== 43

■ サポート / 注意事項

- サポート ========== 44
- 注意事項 ========== 45

目次へ

はじめに

　銀行やクレジット会社、あるいは消費者金融等で、行っている融資（貸金）について、
通常は当初 契約金利で返済していくわけです。
しかし、その途中においての債権者側から残金一括請求する場合、また、利息制限法等に照らして
債権者側、債務者側双方で見直す場合等においての「金利引き直し計算」が必要とされる場面が、
益々多くなってきております。
この計算は非常に複雑で面倒なものです。金利に関する考え方もさまざまな解釈もあり、
これら全て に対応はできませんが、
多くのケースに対応できる形として当ソフトをつくりました。

是非、多様にお試しの上、ご活用頂ければ幸いです。

目次へ

ローンマスター／金利引き直し 計算

　このソフトは、ローンの金利引き直し計算ソフトです。
金利引き直しとは、ローンの返済において、返済予定とは異なる形で、実際に返済された日付や金額に対し、金利率の変化等を加味して再度元利展開計算を行うものです。
実際の返済状況というのは、休日や遅延等でずれたり、金額の過不足が生じたり、当初返済予定表とは異なった展開になることがあります。
また、途中で金利が変わったり、特に滞納の場合、期限の利益喪失等により、遅延損害金に切り替わる等の計算が必要となってきます。
さらに、債務者側での過払い分やその損害金等を判定計算することも必要となってきます。
このソフトはそれらに簡単に対応できるソフトです。

金融関連の債権者側として、あるいは債務者側の債務整理や破産、あるいは過払金返還請求等の手続きに、そして個人の借入返済に活用できるソフトです。

特長

１．日付は入力、表示共に西暦・元号両方にて簡単にできます。
２．期間（金利計算）の表示も可能。
３．順序不同の入力で対応できます。
４．閏年での自動判定計算可能。
５．期限の利益喪失の設定および金利変更設定が可能。
６．利息制限法に対応可能（過払金額の算出可能）。
７．過払金に対する損害金計算も可能。
８．保存・読込ができ、データの加工も可能。
９．入力データ印刷および、計算結果の印刷が縦横に可能。
10．初期設定により、各設定が自動設定されます。
11．１区間のみの日数計算を伴った金利計算も可能。
12．リクエストに応じた融資試算が可能。
13．実用的な融資返済計算（元利均等払・元金均等払）機能
14．電卓・日数計算ソフト付き。

目次へ

計算方法　（概略）

● **通常時**

１．貸付（借入）時

貸付（借入）分がそのまま、元金残高に加算されます。
前元本残高がある場合は、それに対する金利を一度ここで、「未払金利」として計上します。
「貸付日算入」の場合は、貸付日一日分の金利を前元金残高に加算して「未払金利」として計上し、次の金利処理時に「金利充当額」として計算処理する形となります。

２．返済時

返済額の内、前元金本残高に対する金利、及び、それまで蓄積された「未払金利」を併せ て、返済額から差し引き、「金利充当」とします。その返済額から金利充当分を差し引いた分を 「元金充当額」として、前元金残高から差引して、今回の元金残高とします。

● **期限の利益喪失**

期限の利益喪失日を「返済額＝０」で自動入力され、それまでの金利計算をして、未払金利 として計上されます。これは以後返済金があった場合に合わせて処理されます。
これ以降の金利計算は、指定された遅延損害金年率によって計算されます。

● **金利変更時**

金利変更日の前日を「返済額＝０」で自動入力され、それまでの金利計算をして、未払金利 として計上されます。
金利変更日以降は金利変更後の金利年率によって金利計算されます。
計上された「未払金利」は、以後返済金があった場合に合わせて処理されます。

● **利息制限法対応**

利息制限法

元本が	10万円未満であれば	20%
	100万円未満であれば	18%
	100万円以上であれば	15%

で自動計算します。
但し、当初入力設定した金利率の方が上記金利率よりも低い場合は、入力した金利率がそのまま適用されます。

１．貸付（借入）が一回の場合

貸付（借入）元本金額に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%
100万円以上：15%　で計算します。
元本残高が変化しても最初の貸付(借入)元本金額に対応して計算されます。

２．複数貸付（借入）の場合
元本残高に対して金利年率をどのように設定対応するか、
「最高残高に対応」「前元本残高に対応」の２種類の選択対応となります。

●最高残高に対応の場合

最高の元本残高に合わせた利息制限法での年率を、その最高元本残高発生以後の計算で適 用していきます。
例えば、2007/03/01に追加融資を受けて、元本残高が最高の121,708円の場合、
次の年率 は18%で計算し、返済が進み、元本残高が、10万円未満になっても、
年率は20%ではなく、そのまま18%で計算していき ます。
要するに、金利年率は前元本残によって下がることはありますが、前元本残が
減ったから といって金利年率を上げることなく金利計算をしていきます。
基本項目入力の画面では、「**利息制限法：対応(Max)**」と表示されます。

●前元本残高に対応の場合

常に前元本残高に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%
100万円以上： 15%　で計算します。
基本項目入力の画面では、「**利息制限法：対応(前残)**」と表示されます。

● **過払金発生時**

前元本残高がマイナスになった場合、それは過払い状態となって、その分に対して
損害金を計 算することができます。
その損害金は、追加借入や通常金利などとは一切相殺せずに、また、元本残高にも
一切影響し ない形で計算します。
損害金は、通常金利などと合算せずに、つどに別の表（列）にわかりやすく計算表示
されま す。
損害金は、基本入力項目画面にて、「過払金に対する損害金」で金利年率を入力しなければ、
損害金は計算しません。

ご注意：
当ソフトの金利引き直し計算方法の概略です。
当計算方法が適当ではない場合もありますので、計算結果等をよくご検証の上、
ご承認、ご納得の上でご使用ください。

目次へ

● 初期設定

タイトル画面の「設定」で行います。変更可能です。
この初期設定を保存すると、以後、
表示関連～「年月日表示」「返済日」「スタンス表示」「結果出力」
印刷関連～「印刷（左マージン）」「印刷での債務者表示」「印刷での債権者表示」
計算関連～「同日の貸付・返済順序」「金利計算の円未満処理」「閏年対応」「貸付（借入）日算入」「利息制限法」「利息制限法対応年率」
以上の１２項目についてソフト起動時に自動初期設定されます。
また、顧客ファイルを格納するフォルダも指定保存します。
起動後のつどの設定変更は各画面でもできます。

１．初期設定します。
　各設定は起動後にも変更できます。

２．基本項目入力
　各設定画面で「年率」「期限の利益喪失日」「最終計算日」を入力します。
　途中での金利変更があれば、金利変更を入力します。
　過払金に対して損害金を計算する場合は、年率を入力します。
　（過払金に対する損害金年率がゼロであれば、計算結果での表示年率は当初の金利年率となり、損害金は計算しません。）
　（ここでファイルを呼び出して、展開計算すると、計算結果表示へ進みます。）
　債権者名、債務者名、ファイル名などを入力します。（必須ではありません）

３．貸付分入力
　貸付日と金額を入力します。

４．返済分入力
　返済日と金額を入力します。
　「展開計算」ボタンをクリックして、計算結果表示画面へ進みます。
　※「展開計算」ボタンが無効状態（展開計算の文字が薄くなっていて、
　　ボタンが押せない状態） の場合は、この「返済分入力終了」ボタンをクリックすると、
　　「展開計算」ボタンが有効状態になりま す。

５．計算結果表示
　計算結果の表示をします。ここで各設定をいろいろと変えて再計算ができます。
　ここでファイルの保存（読込）ができます。

　各画面から前の画面へ戻って訂正できます。

● 一般的操作要領

１．基本的に、入力してエンターキーを押すと、確定して次の項目へ移動します。
　　(タブキーでは確定しませんので注意)

２．戻り訂正は、→←↑↓キー、もしくはマウスで該当項目をクリックします。

３．各項目は基本的チェックがかかりますので安心して入力できます。

４．日付入力では、西暦８ｹﾀ、もしくは元号(H)+６ｹﾀで入力します。
　　元号は　基本は「**H**」や「**R**」ですが、「**h**」「**r**」「**ｸ**」「**ｽ**」　でも入力できます。
　　例：　2002年1月20日では
　　20020120　もしく　H140120　h140120　ｸ140120　いづれでも入力できま す。

　　例：　2002年1月20日では
　　20020120　もしくは　H140120　h140120　ｸ140120　などで入力できます。

● **自動月末割出入力**

年月日入力で、その月の月末の日付以上の日付を入れると、自動的に月末を判定して入力され ます。
例えば、20020431　と入力すると、自動的に　2002/04/30 が入力されます。

● **「翌月同日同額自動入力」での自動月末入力**

返済入力において、月末で入力して、その翌月以降を　「+」エンターで
「翌月同日同額自動入 力」すると、各月の月末を自動判定して入力されます。

基本項目入力

目次へ

債権者名、債務者名、ファイル名などを入力します。
必須ではありませんが、後々わかりやすいので、入力した方が良いでしょう。

１．金利年率は当初の年率を入力します。

２．期限の利益喪失後の遅延損害金の年率を入力します。
無指定エンターでは、自動的に14.6%が入力されます。

３．期限の利益喪失日を入力します。（必須ではありません）
入力せずにエンターでとばした場合は入力されません。
期限利益喪失日を入力しない場合は、当然遅延損害金の年率での計算はされません。

取消：既に入力されている期限の利益喪失日を取り消して、設定しない場合は、
ゼロ入力で 取消されます。

４．最終計算日は入力必須です。
この日以降の貸付分や返済分があっても一切計算されません。

５．**金利変更**は期限の利益喪失日がある場合は、それ以前での金利変更として、期限利益喪失後はす べて遅延損害金年率に統一されます。

金利変更日：金利変更日から指定の年率での計算になりますので、その前日まで、
それまでの年率で計算されて、金利変更日を含めて指定の年率 での計算となります。
計算上の日付としては、金利変更日の前日が表示され、それまで前の年率での 計算となります。
金利変更なしの場合は、そのまま「貸付入力」ボタンで次の貸付入力欄へ進みます。
金利変更ありの場合はオプションボタンで選択し、年月とその日から適用される年率を
入力しま す。
金利変更は最高６０回までできます。
金利変更入力終了は、「*」ｴﾝﾀｰ、もしくは「金利変更入力終了」ボタンで次の「貸付入力」へ
進 みます。

６．過払金に対する損害金
年率を入力します。
（過払金に対する損害金年率がゼロであれば、計算結果での表示年率は当初の金利年率となり、
損害金は計算しません。）

７．訂正等の為の移動は、↑↓キーもしくは、マウスでクリック。

目次へ

各設定状況

初期設定の内、「日付表示」「閏年対応」「貸付日算入」「利息制限法」「返済日変換」の５項目に ついて、
現状の設定状況を表示します。
この内、利息制限法に対応する場合に関しては、
最高残高に対応　～**利息制限法：対応（Max）**
前元本残高に対応～**利息制限法：対応（前残）**
と表示されます。

● メニューの設定の説明（初期設定で設定できます）

ここで設定するのは、ソフトを起動させている間だけに通用するものです。
つまり、一度ソフトを終了して、また起動した場合は、初期設定されている内容が設定されま す。

１．年月日表示
入力した年月日の表示を設定します。

例：　元号～令和01年05月20日
　　西暦～2019/05/20

２．閏年対応
閏年での金利計算方式を設定します。

例：　閏年対応する
　　123,456×18%÷366×日数

　　閏年対応せず一律365日で計算

３．貸付日算入
貸付当日の金利を計算するか設定します。

なし　貸付日は一切含まない
あり　貸付日金利を計算する

４．利息制限法に準じて金利計算するかどうか設定します。

ここでは、利息制限法に対応するかどうかだけを設定します。

利息制限法に対応する場合の年率対応については、ここでは設定できません。
タイトル画面の上部メニューの初期設定で対応年率を設定します。

貸付（借入）が一回の場合
貸付（借入）元本金額に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%　100万円以上：15%
で計算します。
元本残高が変化しても最初の貸付（借入）元本金額に対応して計算されます。

これらの計算方法が適さない場合もありますので、ご確認の上、ご使用下さい。

５．返済日変換
土・日・祝日等カレンダー参照して銀行営業日を割り出して自動変換します。
例えば：返済日に19990710 と入力すると当日は土曜日なので月曜日である7/12を割り出し入力 します。「変換せず」を選択すると、入力したままの年月日で入力されます。

６．金利計算の円未満処理
金利計算での小数点以下の端数処理を指定します。
貸付日算入分の金利や期間金利等を合算の上で最終的に円未満処理をします。
選択は「切り捨て」「四捨五入」

目次へ

貸付（借入）分入力操作

１．入力してエンターで確定します。（タブキーでは確定しません）

２．入力順は貸付日順でなくともかまいません。
順不同で入力ＯＫ。

３．貸付日入力は西暦の８ｹﾀ、もしくは
元号(H・R)+６ｹﾀで入力します。
例：　2019年5月20日であれば20190520 もしくは　R010520

４．金額入力は円単位で入力エンターします。

５．訂正は上書きエンター。

６．行の削除はカーソルを該当セルへ持っていって「DEL」キー。

７．入力終了は、貸付日入力欄に「＊」エンター

もしくは、「貸付分入力終了」ボタンを押して、貸付分入力分を確定させて次の

「返済分入力へ進みます。

８．ファイル呼出後に追加入力もできます。

９．貸付（借入）入力した分をクリップボードコピーして、表計算やワープロソフトなどに

貼り付け できます。

操作はコピー参照

返済分入力操作

目次へ

１．入力してエンターで確定します。（タブキーでは確定しません）

２．入力順は返済日順でなくともかまいません。順不同で入力ＯＫ。

３．返済入力は西暦の８ｹﾀ、もしくは
元号(H・R)+６ｹﾀで入力します。
例：　2019年1月20日であれば　　20190120 もしくは　H310120

４．金額入力は円単位で入力エンターします。

５．訂正は上書きエンター。

６．行の削除はカーソルを該当セルへ持って
いって「DEL」キー。

７．初期設定では、「返済日」は銀行営業日に設定されています。
土・日・祝日等により銀行の営業日を自動割り出しして入力されます。
「Ｏそのまま入力」へマウスクリックチェックすると、入力した日付をそのまま入力できます。

８．返済日入力に「+」を入力エンターすると、翌月同日の同金額が効率的に自動入力されます。

９．入力終了は、返済日入力欄に「＊」エンターもしくは、「返済分入力終了」ボタンを押して、 返済分入力分を確定させて**「展開計算」ボタン**を押して「計算結果」画進みます。
※「展開計算」ボタンが無効状態（展開計算の文字が薄くなっていて、
ボタンが押せない状態）の場合、
この「返済分入力終了」ボタンをクリックすると、「展開計算」ボタンが有効状態に
なりま す。

10．ファイル呼出後に追加入力もできます。

11．返済分入力した分をクリップボードコピーして、表計算やワープロソフトなどに
貼り付けできま す。

操作はコピー参照

目次へ

計算結果表示　画面操作

１．「ﾌｧｲﾙを開く」
「名前を付けて保存」
「計算結果の印刷」
「印刷プレビュー」（「ローンマスター／金利引き直し計算　S-Type」には、この機能はありませ ん）
「MD電卓」
「支払営業日割出」
「ﾍﾙﾌﾟ」
以上は、上部のメニューバーもしくは、アイコンクリックにて対応。

２．[日付表示]　[閏年対応]　[貸付日算入]　[利息制限法]　は、それぞれのクリックチェックによ り、指定通り再計算をします。
印刷も画面表示の形で印刷されます。
但し、ここでの設定変更は初期設定変更ではなく、この場限りのこととなります。

※ [過払分損害金]　は、画面上では常に計算表示しますが、印刷では、印刷する・しない　を選 択できます。

３．計算表タイトルは、印刷時のタイトルです。
自由にタイトルを書き込み指定できます。

特に指定ない場合「貸付返済/元利計算表」となります。

４．ﾌｧｲﾙﾊﾟｽ名は、ファイルを読込や保存した場合に、そのパスが表示されます。

５．印刷はＡ４サイズの横と縦のどちらかを選択できます。
計算表の行数は、横が30行、 縦が48行となります。

印刷ボタンと印刷枚数（頁数）
「たて印刷」「よこ印刷」のボタンが表示されますが、それぞれの印刷枚数も表示されますので、印刷前に印刷枚数が分かります。

また、プリンタのガイドにて縮小などができます。
プリンタにより、印刷位置が違うことがありますので、初期設定の「左マージン」を設定して下さい。

６．印刷プレビュー
印刷する前に、おおよそどのように印刷されるかを見ることができます。
ここから詳細な印刷（印刷範囲指定など）をすることもできます。

７．計算結果をクリップボードコピーして、表計算やワープロソフトなどに貼り付けできます。

操作はコピー参照

８．コメント
自由にコメントを入力できます。
当ファイルについての注意事項などを入力保存します。

９．スタンス
貸し手側なのか、借り手側なのかを表示します。
表示が、貸し手の場合は、請求額となり、借り手の場合は被請求額となります。

● 計算内容

１．貸付や返済分の入力は順不同でも、全て並替されて計算されます。

２．「閏年対応」の場合、平年と閏年の間に　12月31日が自動設定され、金利計算の区切りとなりま す。
その場合の閏年の金利は前元本残×年率÷366×日数となります。

３．貸付日算入ありにした場合は、金利計算においてそれぞれの貸付日も日数に含んで計算します。　（両端計算）

４．元本残高がマイナスになった場合（過払い）

・過払に対する損害金で、実質年率を入力していれば、過払い金に対する損害金をマイナスで計 算します。
・過払に対する損害金で、実質年率をゼロあるいは、何も入力していなければ、過払い金が発生 しても金利や過払い金に対する損害金は計算しません。

５．期間表示はタイトルメニュー画面の設定にて、初期設定すると表示されます。

６．最終残高がマイナスの場合は、過払い　となるため、その金額を改めて「過払金額」として、表 示します。
但し、印刷においては、過払分損害金について、印刷する・しない　を選択できます。

日割り金利計算

目次へ

この機能は、一区間での金利計算を経過日数や計算式も含めて表示します。

閏年計算

閏年をまたいだ場合でもそれぞれで計算します。

例：1999年12月10日～2000年01月20日での金利計算の場合

1999年12月10日～1999年12月31日の間の金利計算は通常年であるので、
元金×年率÷３６５日で一日当たりの金利を計算し、
2000年01月01日～2000年01月20日の間の金利計算は閏年であるので、
元金×年率÷３６６日で一日当たりの金利を計算します。
上記の閏年の境目の区切り計算を自動的に行います。

一律計算

閏年に関係なく一律に元金×年率÷３６５日で一日当たりの金利を計算します。

経過日数

片端での経過日数を表示します。

金利合計額

円未満切り捨てでの表示となります。

計算式

閏年計算の場合は、上記の通り、閏年と通常年との境目を自動判定して、
それぞれに計算式と金利額を算出表示します。
一律計算の場合は、閏年に関係なく一律での日数計算で計算式を表示します。
ここでの金利額は小数点以下第３位まで表示します。

印刷

以上の入力と計算結果を印刷します。

片端計算

ここでの計算は片端計算です。
片端計算とは貸付日を算入させないことです。

目次へ

融資リクエスト試算／回数指定

融資貸付で貸付元金総額や支払回数などが決まっている場合に、その回数の範囲内で
月々支払額がいくらなら→ボーナス払分がいくら
ボーナス払分がいくらなら→月々支払額はいくら
というように、それぞれのリクエストに応じて目安額を算出します。
その目安額でよければ、そのまま正式計算をします。
計算は毎月分貸付元金とボーナス分貸付元金も割り出します。

機　能

○最終年月・金利合計額も算出されます。
○毎月支払希望額を入力するとボーナス目安が出ます。
○ボーナス加算希望額を入力すると毎月分目安が出ます。

ボーナス払

ボーナスの間隔は夏冬で、自由に計算できます。
例えば、６月－１２月　　７月－１２月　　８月－１２月
６月－１月などの間隔での計算が可能です。

○「確定」ボタンで概算が出て、そのまま「正式計算」ボタン
　で正式計算をします。

注意：ここでの計算は、月利計算のみですので、融資実行日や初回支払日を
決めた上での日割り金利計算を含む計算までは行っておりません。
実際の具体的計算の場合は「融資返済計算（詳細計算）」機能で計算して下さい。

○ボーナス回数は自動カウントします。
○試算結果の印刷ができます。

元利均等払いと元金均等払いの２種類があります。

入力項目

金利年率　　：１１０％以上の数字は入力不可
融資金額（総額）：最高１億円まで
支払回数　　：最高１２００回まで
初回支払年月　　：１９５０年～２０９９年
ボーナス初回年月：初回年月より前は不可
ボーナス２回目月：月だけ入力（年月ではない）

目次へ

借入可能金額（元利均等払）割出し

融資での、毎回の返済希望額をリクエストして、
その支払方法での最高いくらまで借りられるか
借入元本額を割り出すものです。

実質年率計算での元利均等払方法で、
毎回の返済希望額から逆算して、借り入れする
毎月分とボーナス分の借入元本をそれぞれ算出します。

機能

１．既定の支払回数の他に回数を自由設定できます。
２．初回年月とボーナス月を指定して、含まれる最大の
　　ボーナス回数を自動で割出して計算します。
３．割り出す元本は円単位から１万円単位まで指定できます。
４．ファイル保存して、呼びだしてそのまま加工もできます。
５．一覧表が印刷できます。

入力項目

１．実質年率
最高は１０９．２％まで

２．初回年月
第一回支払の年月を入力します。
入力方法は、西暦６桁もしくは元号４桁で入力します。
例：　200303　H1503等

３．ボーナス初回年月
第一回のボーナス月を入力します。
ボーナスの有無にかかわらず必須入力です。
入力方法は、西暦６桁もしくは元号４桁で入力します。
例：　200307　H1507等

４．ボーナス２回目　月
２回目のボーナスの「月」だけを入力します。
（年月ではありません。月だけです。）
例：7　12

５．毎月支払希望額
毎月の支払額を円単位で入力します。
「金利込みで毎月いくら」の形で入力します。

６．ボーナス加算希望額
ボーナス月にボーナス分として、金利込みで
いくら払いたいかを入力します。
ゼロを入力すると、ボーナスなしの均等払の扱いになります。

７．支払回数
既定の支払回数が表示されていますが、
自由に回数を入力することができます。
回数を入力してエンターキーを押して確定して計算されます。

８．支払回数の設定
現在表示されている回数をそのまま次回起動時にも
自動設定することができます。
設定方法
メニューバーの「設定」－「現在表示の支払回数で設定」をクリックすると
そのまま設定されて、次回起動時もこの回数となります。

９．元金単位の設定
元金を算出する際に、1円、100円、1000円、１万円単位にそれぞれ
設定することができます。
設定方法
メニューバーの「設定」－「元金単位」で、それぞれの単位項目を
チェックすると、そのまま設定されます。
次回起動時もこの設定となります。

１０．ファイル
入力計算した内容をファイル保存、呼びだしができます。
メニューバーの「ファイル」から「ファイルを開く」「名前を付けて保存」で
ファイル操作します。
呼び出したファイルをそのまま加工して、再度ファイル保存もできます。
拡張子は「＊．KK1」です。

１１．印刷
入力計算、あるいはファイル呼びだしした内容を一覧表にて
印刷できます。紙のサイズは「Ａ４」サイズとなります。

１２．コピー
コピーボタンもしくは、表を右ボタンすると「コピー」が出ますので、
一覧表の内容をクリップボードコピーできて、Excelなどの他のソフトにも貼付できます。

目次へ

融資返済計算　（詳細計算）

ここでの計算表示はシミュレーションだけではなく、ユーザーの計算方針と一致すれば、
実用の融資計算として対応できるものです。

貸付金額や支払回数等が決まっていたら、この機能で計算します。

元利均等払と**元金均等払**の２種類があります。
計算方法の詳細は下記を参照して下さい。

特長

１．融資実行日から返済日までの初回日割り計算も詳細に計算されます。
２．ボーナス払は６ヶ月間に限らず、夏冬の自由なボーナス月での組み合わせで計算できます。
３．都度の試算が一枚の紙に数通り印刷できます。
４．ボーナスオンリーでの計算もできます。（年賦・半年賦）
５．詳細な元利展開表が表示され、そのまま印刷されたものは償還表としても活用できます。
６．ファイル保存できますので、後で呼び出して再加工もできます。

入力項目

実質年率　　：１１０％以上の数字は入力不可
毎月払元金　　：最高５億円まで
ボーナス払分元金：最高５億円まで
支払回数　　：最高１２００回まで
融資実行年月日　：対象年：１９５０年～２０９９年
初回支払年月日　：８ｹﾀ年月日、例えば、20030120と入力
　　ここでの日が以降の支払日とします。
　　対象年：１９５０年～２０９９年
ボーナス回数　　：支払回数÷６＋１まで
ボーナス初回年月：初回年月より前は不可
ボーナス２回目月：月だけ入力（年月ではない）

操作要領

１．各項目へ入力しエンターキーを押すと、確定して次の項目へ進みます。
２．各項目を入力終了したら、「計算」ボタンで計算され、結果表示されます。
３．「印刷貼付指示」ボタンで今試算した内容を印刷用意させます。
（ここではまだ印刷はされませ ん）
次の別のパターンの試算内容で再び.「印刷貼付指示」ボタンで印刷指示します。
ここで「印刷出力指示」ボタンで初めて、今まで印刷指示した試算内容が一枚の紙に印刷されま す。

目次へ

４．「元利展開表」ボタンで、展開表に画面が変わります。
ここでの印刷は元利展開一覧表が印刷されますので、これがそのまま償還表としても活用できま す。
「コピー」ボタンは一覧表をクリップボードコピーできますので、そのまま他のＥＸＣＥＬなどの表計算ソフトなどに
貼付することができます。
５．ファイルを保存できます。拡張子は「＊．LM1　＊．LM2」です。

ボーナスオンリー払の操作要領

半年賦

１．支払回数は、ボーナス回数ではなく、毎月分の回数で、ボーナス最終分の年月までの期間（月 数）です。
入力時では、何ヶ月になるかは不明の場合がありますので、多めの回数を入力します。
わからなければ３００回などの回数を入力しておけば、自動的に回数は割り出されます。
例：通常ボーナス回数が１０回であれば、５年分の月数６０回や余裕をもって１００回と入力してもかまいません。計算で自動的に回数（月数）を割り出します。
２．初回支払日は毎月分の初回という意味となりますので、実行日の翌月の日付を入力します。
３．ボーナス回数を入力します。
４．ボーナス初回年月を入力します。
５．ボーナス２回目の月だけを入力します。
このボーナス２回目の月を初回の月と同じ月を入力すると、それは年賦の扱い　になります。

年賦

半年賦と同様ですが、ボーナス２回目の月を初回の月と同じに入力すると、年賦の計算となります。
ボーナス回数などに注意して入力します。

■■　計算方法の詳細

●　元利均等払　詳細計算

元利均等払とは、毎回の返済額が一定額で、
その元利内訳が変化していく返済方法。
基本的には、元利均等払の概算計算と毎回の返済額は同じですが、
初回の金利は、その融資実行日によって異なってくる金利を
日割り金利計算も含んで計算します。

目次へ

◯計算例
初回返済額の実際例は下記の通りです。

例：　融資額：2,000,000円
　　内訳　：　毎月分　：1,500,000円
　　：　ボーナス分：　500,000円
　　実質年率：3.0%
　　返済回数：60回払
　　融資実行日：2003年05月20日
　　初回支払日：2003年06月27日
　　初回ボーナス月：2003年07月
　　２回目ボーナス月：12月
　　ボーナス回数：10回

以上の例では、毎回の返済額は
　　毎月返済額　　：26,953円
　　ボーナス加算額：53,616円　となります。
ここでの毎月返済額26,953円は、月利計算での金額となります。
つまり、毎月の支払日は２７日であれば、
　5/28----6/27　6/28----7/27　7/28----8/27----　というように
2003年05月28日からの一ヶ月毎の月利計算で算出された
毎月返済額26,953円ということになります。
この例の場合は5/20融資実行ですので、5/20--5/27までの
８日分の日割り金利が別に必要となってきます。
1,500,000×3%÷365×8＝986円‥‥これを初回に加算しますと
986＋26,953＝27,939円～これが初回の返済額となります。
　　｜--２ヶ月間--｜--５ヶ月間--｜ --７ヶ月間--　｜-‥‥‥
ボーナス払においても同様の考え方となります。
　5/28　-----7/27　　12/28--------7/27‥‥
　　7/28--------12/27

以上の関係で計算されたものが、ボーナス払額53,616円となりますので
500,000×3%÷365×8＝328円‥‥これをボーナス初回に加算しますと
328＋53,616＝53,944円～これがボーナス初回の返済額となります。

==========

目次へ

● 元金均等払　詳細計算

元金均等払とは、毎回の返済額の内、元金部分が一定額で、
金利部分は前月元金残高に対しての金利として、毎回変化していく為、 毎回の返済額は
変化していく返済方法。
基本的には、元金均等払の概算計算と毎回の返済額は同じで、
毎回の金利は月利で計算していきますが、
初回の金利については、その融資実行日から初回支払日までの
日割り計算により計算しています。
シミュレーションだけではなく、実用の融資計算に対応できるものです。

○計算例

初回返済額の実際例は下記の通りです。

例：　融資額：2,000,000円
　　内訳：　毎月分　　：1,500,000円
　　：　ボーナス分：　500,000円
　　実質年率：3.0%
　　返済回数：60回払
　　融資実行日：2003年05月20日
　　初回支払日：2003年06月27日
　　初回ボーナス月：2003年07月
　　２回目ボーナス月：12月
　　ボーナス回数：10回

以上の例では、毎回の返済額は

毎月返済額　　：25,000円＋毎回の金利
ボーナス加算額 ：50,000円＋毎回の金利　となります。
ここでの毎回の金利は、前回残高に対する月利計算となります。
例えば、毎月の支払日は２７日であれば、
毎月前月の28日から当月27日までの金利として、
月利計算していきます。
例：　２回目の金利～前月元金残高　1,475,000×3%÷12＝3,687円
　　２回目返済額＝元金分25,000＋金利分3,687＝28,687円となります。
初回のみ、融資実行日との間隔で日割り計算をします。
融資実行日～初回支払日＝３９日間（貸付日算入）
1,500,000×3%÷365×39＝4,808円‥‥これを元金分25,000円に加算しますと
25,000＋4,808＝29,808円～これが初回の返済額となります。

ボーナス払においても同様の考え方となります。

```
        5/28   -----7/27          12/28--------7/27‥‥
                                                7/28--------12/27
  │--２ヶ月間--│--５ヶ月間--│--７ヶ月間--│-‥‥‥
```

例えば、12/27に支払う２回目のボーナスでは、
7/28～12/27までの５ヶ月分の月利計算金利
450,000×3%÷12×5＝5,625円‥‥これをボーナス元金分50,000円
に 加算しますと　50,000＋5,625＝55,625円～これが２回目の
ボーナス返済額となります。
初回のボーナス分の金利は、融資実行日から初回ボーナスまでの
期間（5/20～7/27＝６９日間）を日割り計算した金利を
ボーナス元金分50,000円に加算しますと、
500,000×3%÷365×69＝2,835円‥‥これを元金分50,000円に加算しますと
50,000＋2,835＝52,835円～これが初回のボーナス返済額となります。

ご注意
当ソフトは上記の計算方法で計算しておりますので、
他の考え方による計算方法の場合は対応できませんので
ご注意下さい。

ファイルの読み込み・保存

１．ファイルはテキスト形式で、拡張子は 「*.KH2」です。

前バージョンでのファイルは「*.KHN」ですが、読込のみ可能です。
読み込んで、「*.KH2」で保存し直してください。

２．読込は「入力」画面と「計算結果表示」画面でできます。
「入力」画面で読み込み、展開計算で「計算結果表示」画面へ進みます。
そこから前画面（入力画面）へまた戻って訂正入力ができます。

３．保存は「計算結果表示」画面でのみできます。
他の画面では保存はできません。

年月日表示

入力確定と計算結果の年月日の表示を設定します。

年月日入力は　　西暦８ｹﾀ　～ 20020120
元号(H)+６ｹﾀ～ H140120

元号は　基本は「**H**」や「**R**」ですが、「**h**」「**r**」「**ｸ**」「**ｽ**」「**+**」　でも入力できます。
例：　2002年1月20日では
20020120　もしくは　H140120　　h140120　　ｸ140120　　+140120
いづれでも 入力できます。

どちらかの方法で入力すると、年月日表示は設定された選択によって下記の表示になります。
元号～平成14年01月20日
西暦～2002/01/20

● **自動月末割出入力**

年月日入力で、その月の月末の日付以上の日付を入れると、自動的に月末を判定して入力され ます。
例えば、20020431　と入力すると、自動的に　2002/04/30 が入力されます。

● **「翌月同日同額自動入力」での自動月末入力**

返済入力において、月末で入力して、その翌月以降を 「+」エンターで
「翌月同日同額自動入 力」すると、
各月の月末を自動判定して入力されます。

設定方法

タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。
また、「各設定」画面のメニューの「設定」では、その起動ごとの設定ができます。
「計算結果表示」画面の上部のオプションボタンで、その場で切替再表示がされます。

返済日の銀行営業日変換

返済日の入力時点で銀行の営業日へ自動変換するかどうか設定します。

「変換せず」の場合
入力したままの年月日で確定、計算されます。

「変換する」の場合
例えば：返済日に19990710 と入力すると当日は土曜日なので月曜日である7/12を割り出し
入力しま す。
但し、休日をカウントしないという「日数調整」は対応しません。

◆　休日は、１月1～3日、土・日曜日、祝祭日、春分・秋分の日計算対応
　　2000年以降の成人の日・体育の日（第二月曜日）も対応しています。

設定方法
タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。
また、「各設定」画面のメニューの「設定」では、その起動ごとの設定ができます。

スタンス

このソフトを使い、計算表を出す人は債権者なのか債務者なのかによって、
貸付になるのか借入にな るのかの表示が違ってきます。
それを設定します。

「貸付」の場合債権者側として計算する場合に選択します。
計算表の表示が「貸付日・貸付金額」や「請求金額」となります。

「借入」の場合債務者として計算する場合に選択します。 計算表の表示が
「借入日・借入金額」や「被請求金額」となります。

ここでの設定は、単に表示だけの設定になります。
計算内容に変化はありません。

期間表示

計算結果表示および、印刷において、金利計算の期間を表示することができます。
これを選択しなければ、期間日数のみの表示になりますが、期間表示にすると
例えば、　2002/01/20～2002/03/25　等のように金利計算の期間が表示されます。
元号で選択すると、　H14/01/20～H14/03/25　となります。

印刷においては、この期間表示は幅の関係上、横印刷のみに限られます。

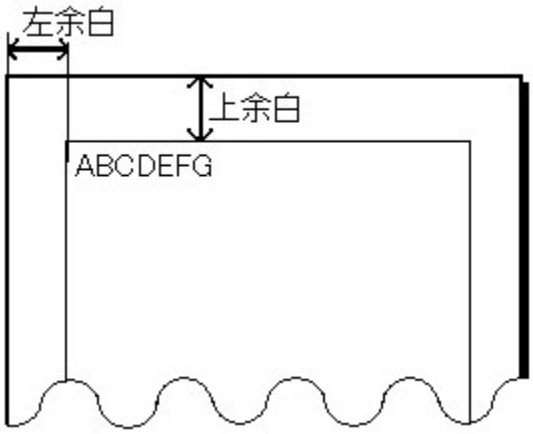
余白の設定

計算結果表示において、縦印刷と横印刷ができます。
プリンタの種類などによっては、その印刷がずれることがありますので、
印刷開始位置を調整設定します。（マイナス入力でも可能です）

１．左余白（左マージン）
水平方向の印刷開始位置を指定します。
通常はゼロですが、－２～＋３　程度の範囲で指定できます。

２．上余白
垂直方向の印刷開始位置を指定します。
通常はゼロですが、－１～＋５　程度の範囲で指定できます。

それぞれ過度に指定しますと、印刷が紙からはみ出して印刷されませんので、ご注意下さい。



印刷での債務者名表 示

「印刷する」で債務者名を展開計算表の上部に印刷します。

印刷での債権者名表 示

「印刷する」で債権者名を展開計算表の上部に印刷します。

計算表での表示印刷

● 計算表のみ印刷

計算表以外が不要の場合
計算表以外の部分で、
注釈等（注釈・表題・債権債務者・金利率等契約内容・請求・過払合計金 額）を
省いて、計算表のみを印刷することができます。

注釈等～・（利息制限法）・（借入分金利は借入日算入の両端計算）などの計算方法を
説明した注 釈。

・過払金額～計算表の最後部分の欄外に改めて過払金額の合計を印刷。 ・請求（被請求）金額合計～計算表の最後部分の欄外に改めて請求（被請求）金額合計を印刷。
・表題～計算表の最上部の計算表のタイトル。
例：「借入・返済　元利計算表」 など
・契約の約定～借入金利率や遅延損害金率などを印刷。
・債権者名
・債務者名
通常では、以上の項目が計算表の欄外に注釈として印刷されます。

設定方法：タイトルメニューの「設定」から、「計算表での表示印刷」項目にて、
「計算表のみ印 刷」を選択します。

別設定～表題は「計算結果」画面の「計算表タイトル」を削除すると、
表題は表示印刷されませ ん。

債権者名と債務者名は、同じくタイトルメニューの「設定」での設定で、印刷する かどうか
選定します。

目次へ

借入・返済　元利計算表

(解約の約定)
金利　実質年率：18.00%　　債権者:
遅延損害金年率：29.20%　　債務者:

(利息制限法)(円)　P：1/1

日　付	借入金額	返済金額	期間日数	年率(%)	金　利損害金発生額	金　利損害金充当額	未払金利損害金累　計	元金充当額	元金残高	過払分損害金
平成8年03月09日	100,000		1	15.00	40	0	40		100,000	0
平成8年04月06日		5,000	28	15.00	1,147	1,187	0	3,813	96,187	0
平成8年04月27日		100,310	21	15.00	827	827	0	99,483	-3,296	0
平成8年05月11日	100,000		14	15.00	40	0	40		96,704	-7
平成8年06月06日		5,000	28	15.00	1,109	1,149	0	3,851	92,853	0
平成8年12月31日		0	206	15.00	7,839	0	7,839	0	92,853	0
平成11年12月31日		0	1095	15.00	41,783	0	49,622	0	92,853	0
平成12年12月31日		0	366	15.00	13,927	0	63,549	0	92,853	0
平成15年12月31日		0	1095	15.00	41,783	0	105,332	0	92,853	0
平成16年12月31日		0	366	15.00	13,927	0	119,259	0	92,853	0
平成18年11月20日	最終計算日	0	689	15.00	26,291	0	145,550	0	92,853	0
合計金額	200,000	110,310			148,713	3,163		107,147		-7
被請求金額							145,550		92,853	

(借入分金利は借入日算入の両端計算)　　被請求金額合計：238,396円

部分を印刷せず、計算表のみを印刷します。

(円)　P：1/1

日　付	借入金額	返済金額	期間日数	年率(%)	金　利損害金発生額	金　利損害金充当額	未払金利損害金累　計	元金充当額	元金残高	過払分損害金
平成8年03月09日	100,000		1	18.00	49	0	49		100,000	0
平成8年04月06日		5,000	28	18.00	1,377	1,426	0	3,574	96,426	0
平成8年04月27日		100,310	21	18.00	995	995	0	99,315	-2,889	0
平成8年05月11日	100,000		14	18.00	49	0	49		97,111	-6
平成8年06月06日		5,000	28	18.00	1,337	1,386	0	3,614	93,497	0
平成8年12月31日		0	206	18.00	9,472	0	9,472	0	93,497	0
平成11年12月31日		0	1095	18.00	50,488	0	59,960	0	93,497	0
平成12年12月31日		0	366	18.00	16,829	0	76,789	0	93,497	0
平成15年12月31日		0	1095	18.00	50,488	0	127,277	0	93,497	0
平成16年12月31日		0	366	18.00	16,829	0	144,106	0	93,497	0
平成18年11月20日	最終計算日	0	689	18.00	31,768	0	175,874	0	93,497	0
合計金額	200,000	110,310			179,681	3,807		106,503		-6
被請求金額							175,874		93,497	

同日の貸付・返済順序

同日に貸付と返済があった場合、その表示順序をどうするかを決めます。
通常は、あまり見られないケースですが、デフォルトでは　返済<金利変更<貸付の順番で
計算表示さ れますが、同日では一時的にマイナス残高になる場合があり、表の見栄えとしても
良くない為、計算表示順序を 貸付<返済　の順序にしたい場合、設定することができます。
設定方法：タイトルメニュー上部のメニューバーの
「設定」－「各設定」－「同日の貸付・返済順 序」でその順序を指定して保存します。

金利計算の円未満処理

金利計算での小数点以下の端数処理を指定します。
貸付日算入分の金利や期間金利等を合算の上で最終的に円未満処理をします。
選択は「切り捨て」「四捨五入」

設定方法
タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。

閏年対応

金利計算において、閏年での計算対応するかどうか設定します。

「設定する」の場合
閏年と平年をまたいだ場合、自動的に　12/31 を設定され、金利計算の区切りとします。
一日当たりの金利は年金利を３６６で割ったものとします。

金利＝前元本残×年率÷３６６×日数

「設定せず」の場合
閏年と平年の区別なく、一日当たりの金利は、年金利を一律３６５でわったものとなります。

金利＝前元本残×年率÷３６５×日数

設定方法
タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。
また、「各設定」画面のメニューの「設定」では、その起動ごとの設定ができます。
「計算結果表示」画面の上部のオプションボタンで、その場で再計算されます。

貸付日（借入日）算入

貸付当日の金利を計算するかどうか設定します。

「なし」の場合
貸付日は一切含まず、すべて片端で金利計算します。

「あり」の場合
貸付日において、一日分の金利を発生させます。

設定方法
タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。
また、「各設定」画面のメニューの「設定」では、その起動ごとの設定ができます。
「計算結果表示」画面の上部のオプションボタンで、その場で再計算されます。

利息制限法対応

目次へ

利息制限法に準じて金利計算するかどうか設定します。

「対応する」の場合

元本が　10万円未満であれば　20%
　　100万円未満であれば　18%
　　100万円以上であれば　15%
で自動計算します。
但し、当初入力設定した金利率の方が上記金利率よりも低い場合は、入力した金利率がそのまま適用されます。

●複数貸付（借入）の場合

「最高残高に対応」の場合

最高の元本残高に合わせた利息制限法での年率を、その最高元本残高発生以後の計算で適用していき ます。
例えば、2007/03/27に元本残高が最高の1,234,567円の場合、次の年率は15%で計算し、
返済が進 み、
元本残高が、100万円未満になっても、年率は18%ではなく、そのまま15%で計算していきます。
要するに、金利年率は前元本残によって下がることはありますが、前元本残が減ったからといって金利年率を上げることなく金利計算をしていきます。

「前元本残高に対応」の場合

常に前元本残高に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%　100万円以上：15%　で計算します。

●貸付（借入）が一回の場合

貸付（借入）元本金額に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%　100万円以上：15%
で計算します。
元本残高が変化しても最初の貸付（借入）元本金額に対応して計算されます。

「対応せず」の場合

一律、入力された金利率によって金利計算されます。

※利息制限法については、本来、貸付元本に対応する利率となっていますが、カード・キャッシング・ローン等にも対応する為に、当ソフトでは前元本残に対しての利率設定としています。
この計算方法が適さない場合もありますので、ご確認の上、ご使用下さい。

設定方法

タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。
また、「各設定」画面のメニューの「設定」では、その起動ごとの設定ができます。
「計算結果表示」画面の上部のオプションボタンで、その場で 再計算されます。

利息制限法対応年率

目次へ

複数貸付（借入）の場合で、利息制限法に準じて金利計算するときに、
元本残高に対して金利年率をどのように設定対応するかを設定します。

利息制限法

元本が　10万円未満であれば　20%
　　100万円未満であれば　18%
　　100万円以上であれば　15%
で自動計算します。
但し、当初入力設定した金利率の方が上記金利率よりも低い場合は、入力した金利率がそのまま適用されます。

●最高残高に対応の場合

最高の元本残高に合わせた利息制限法での年率を、その最高元本残高発生以後の計算で適用していきます。
例えば、2007/03/01に追加融資を受けて、元本残高が最高の121,708円の場合、次の年率は18%で計算し、返済が進み、
元本残高が、10万円未満になっても、年率は20%ではなく、そのまま18%で計算していきます。
要するに、金利年率は前元本残によって下がることはありますが、前元本残が減ったからといって金利年率を上げることなく金利計算をしていきます。

NO	日　付	貸付金額	返済金額	期間日数(日)	年率(%)	金　利損害金発生額	金　利損害金充当額	未払金利損害金累　計	元　本充当額	元本残高	過払分損害金
1	平成19年01月20日	80,000		1	20.00	43	0	43		80,000	0
2	平成19年02月27日		10,000	38	20.00	1,665	1,708	0	8,292	71,708	0
3	平成19年03月01日	50,000		2	20.00	105	0	105		121,708	0
4	平成19年03月27日		10,000	26	18.00	1,560	1,665	0	8,335	113,373	0
5	平成19年04月27日		10,000	31	18.00	1,733	1,733	0	8,267	105,106	0
6	平成19年05月27日		10,000	30	18.00	1,554	1,554	0	8,446	96,660	0
7	平成19年06月27日		10,000	31	18.00	1,477	1,477	0	8,523	88,137	0
8	平成19年07月27日		10,000	30	18.00	1,303	1,303	0	8,697	79,440	0
9	平成19年08月27日		10,000	31	18.00	1,214	1,214	0	8,786	70,654	0
10	平成19年09月20日	最終計算日	0	24	18.00	836	0	836	0	70,654	0

基本項目入力の画面では、「**利息制限法：対応(Max)**」と表示されます。

●前元本残高に対応の場合

常に前元本残高に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%　100万円以上：15%　で計算します。

NO	日　付	貸付金額	返済金額	期間日数(日)	年率(%)	金　利損害金発生額	金　利損害金充当額	未払金利損害金累　計	元　本充当額	元本残高	過払分損害金
1	平成19年01月20日	80,000		1	20.00	43	0	43		80,000	0
2	平成19年02月27日		10,000	38	20.00	1,665	1,708	0	8,292	71,708	0
3	平成19年03月01日	50,000		2	20.00	105	0	105		121,708	0
4	平成19年03月27日		10,000	26	18.00	1,560	1,665	0	8,335	113,373	0
5	平成19年04月27日		10,000	31	18.00	1,733	1,733	0	8,267	105,106	0
6	平成19年05月27日		10,000	30	18.00	1,554	1,554	0	8,446	96,660	0
7	平成19年06月27日		10,000	31	20.00	1,641	1,641	0	8,359	88,301	0
8	平成19年07月27日		10,000	30	20.00	1,451	1,451	0	8,549	79,752	0
9	平成19年08月27日		10,000	31	20.00	1,354	1,354	0	8,646	71,106	0
10	平成19年09月20日	最終計算日	0	24	20.00	935	0	935	0	71,106	0

基本項目入力の画面では、「**利息制限法：対応(前残)**」と表示されます。

●貸付（借入）が一回の場合

貸付（借入）元本金額に対応して、10万円未満：20%　100万円未満：18%　100万円以上：15%　で計算します。
元本残高が変化しても最初の貸付（借入）元本金額に対応して計算されます。

設定方法

タイトル画面のメニューの「設定」-「初期設定」で初期設定ができます。

印刷形式

目次へ

※ 過払い分の損害金の印刷については、「印刷する・印刷しない」で、選択できます。

１．「入力」画面ではそれぞれ、基本項目・貸付（借入）分・返済分の入力分が印刷できます。
（た て印刷のみです）

２．「計算結果表示」での印刷では、下記のダイアログが表示されます。
・印刷するプリンタが選択できます。
・Ａ４紙での縦印刷と横印刷のどちらかを選択できます。
それぞれの印刷ボタンの横にページ数が表示されます。

但し、期間表示の場合は横印刷のみとなります。
「たて」印刷では、一枚印刷行数は４８行です。
「よこ」印刷では、通常では一枚印刷行数は３２行となります。

３．用紙は「Ａ４」サイズになります。

４．計算表のみ印刷

計算表以外が不要の場合
計算表以外の部分で、
注釈等（注釈・表題・債権債務者・金利率等契約内容・請求・過払合計金 額）を
省いて、計算表のみを印刷することができます。

注釈等～・（利息制限法）・（借入分金利は借入日算入の両端計算）などの計算方法を
説明した注釈。
・過払金額～計算表の最後部分の欄外に改めて過払金額の合計を印刷。
・請求（被請求）金額合計～計算表の最後部分の欄外に改めて
請求（被請求）金額合計を印刷。
・表題～計算表の最上部の計算表のタイトル。
例：「借入・返済　元利計算表」など
・契約の約定～借入金利率や遅延損害金率などを印刷。
・債権者名
・債務者名

通常では、以上の項目が計算表の欄外に注釈として印刷されます。

目次へ

設定方法：タイトルメニューの「設定」から、「計算表での表示印刷」項目にて、
「計算表のみ印 刷」を選択します。

別設定～表題は「計算結果」画面の「計算表タイトル」を削除すると、
表題は表示印刷されませ ん。

債権者名と債務者名は、同じくタイトルメニューの「設定」での設定で、
印刷する かどうか選定します。

借入・返済 元利計算表

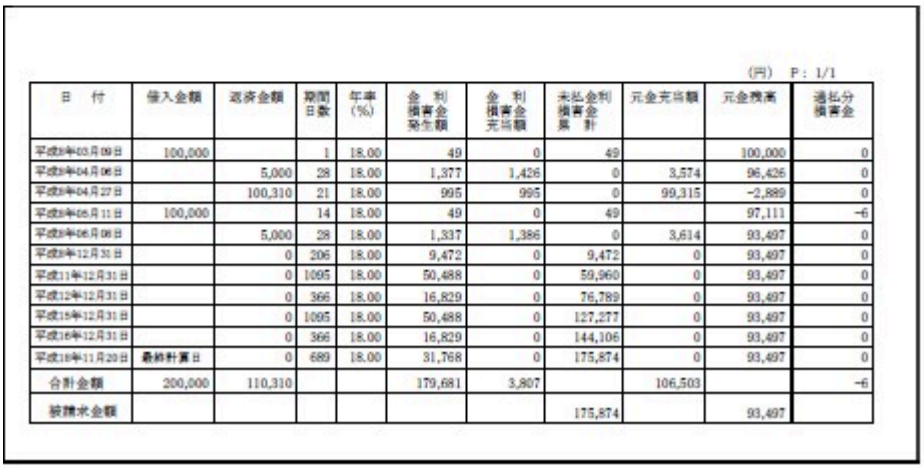
(契約の約定)
金利 実質年率：18.00%　債権者:
遅延損害金年率：29.20%　債務者:

(利息制限法) (円)　P：1/1

日 付	借入金額	返済金額	期間日数	年率(%)	金 利 損害金 発生額	金 利 損害金 充当額	未払金利 損害金 累 計	元金充当額	元金残高	過払分 損害金
平成3年03月09日	100,000		1	15.00	40	0	40		100,000	0
平成3年04月06日		5,000	28	15.00	1,147	1,187	0	3,813	96,187	0
平成3年04月27日		100,310	21	15.00	827	827	0	99,483	−3,296	0
平成3年05月11日	100,000		14	15.00	40	0	40		96,704	−7
平成3年06月06日		5,000	28	15.00	1,109	1,149	0	3,851	92,853	0
平成3年12月31日		0	206	15.00	7,839	0	7,839	0	92,853	0
平成11年12月31日		0	1095	15.00	41,783	0	49,622	0	92,853	0
平成12年12月31日		0	366	15.00	13,927	0	63,549	0	92,853	0
平成15年12月31日		0	1095	15.00	41,783	0	105,332	0	92,853	0
平成16年12月31日		0	366	15.00	13,927	0	119,259	0	92,853	0
平成18年11月20日	最終計算日	0	689	15.00	26,291	0	145,550	0	92,853	0
合計金額	200,000	110,310			148,713	3,163		107,147		−7
被請求金額							145,550		92,853	

(借入分金利は借入日算入の同日計算)　被請求金額合計：238,396円

部分を印刷せず、計算表のみを印刷します。



(円)　P：1/1

日 付	借入金額	返済金額	期間日数	年率(%)	金 利 損害金 発生額	金 利 損害金 充当額	未払金利 損害金 累 計	元金充当額	元金残高	過払分 損害金
平成3年03月09日	100,000		1	18.00	49	0	49		100,000	0
平成3年04月06日		5,000	28	18.00	1,377	1,426	0	3,574	96,426	0
平成3年04月27日		100,310	21	18.00	995	995	0	99,315	−2,889	0
平成3年05月11日	100,000		14	18.00	49	0	49		97,111	−6
平成3年06月06日		5,000	28	18.00	1,337	1,386	0	3,614	93,497	0
平成3年12月31日		0	206	18.00	9,472	0	9,472	0	93,497	0
平成11年12月31日		0	1095	18.00	50,488	0	59,960	0	93,497	0
平成12年12月31日		0	366	18.00	16,829	0	76,789	0	93,497	0
平成15年12月31日		0	1095	18.00	50,488	0	127,277	0	93,497	0
平成16年12月31日		0	366	18.00	16,829	0	144,106	0	93,497	0
平成18年11月20日	最終計算日	0	689	18.00	31,768	0	175,874	0	93,497	0
合計金額	200,000	110,310			179,681	3,807		106,503		−6
被請求金額							175,874		93,497	

5．印刷プレビュー

次ページの印刷プレビュー説明を参照してください。

・印刷の概要状況を画面で見ることができます。
・表示ページのみやページ指定での印刷ができます。

注意：「ローンマスター／金利引き直し計算　S-Type」には、この機能はありません。

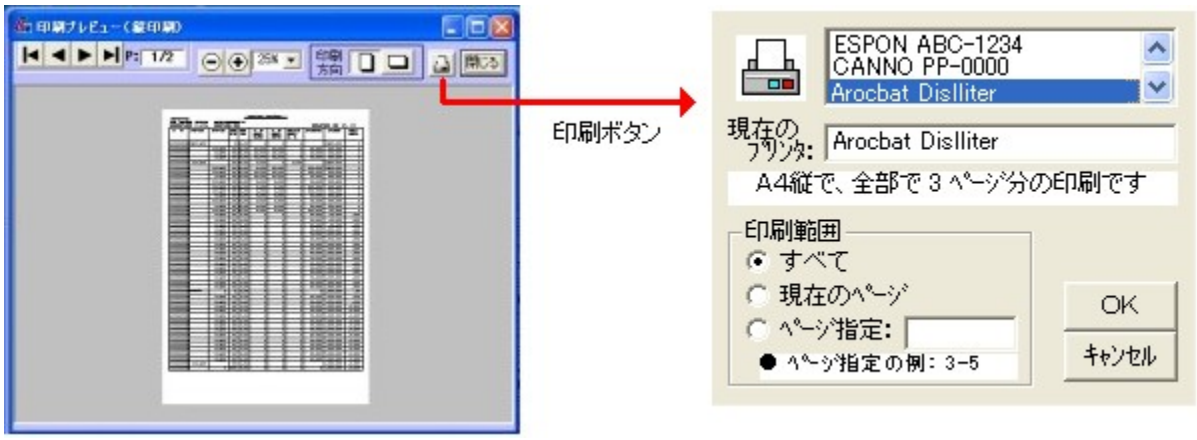
目次へ

印刷プレビュー

注意：「ローンマスター／金利引き直し計算　S-Type」には、この機能はありません。

※ 過払い分の損害金の印刷については、「印刷する・印刷しない」で、選択できます。

印刷する前に、印刷した場合の概要状況を画面で見ることができます。
「たて」、「よこ」、各ページ、自動、巾自動、２ページ、25%～150%の縮小・拡大など。
ここから印刷することもできます。



印刷ボタンから次の印刷ができます。

1.プリンタを選択できます。
2.印刷範囲を選択できます。
- すべて～全ページを印刷します。
- 現在のﾍﾟｰｼﾞ～印刷プレビューに表示されているページのみ（１ページ分）を印刷します。
- ﾍﾟｰｼﾞ指定～複数ページを指定して、その指定ページのみを印刷します。

例：３ページから５ページまでの３枚を印刷したい場合＝「3-5」と入力 します。
始ページ数字と　-（半角のマイナス記号）　終ページ数字　という 形で
入力します。
９ページ目の1ページ分だけであれば、「9-9」、または、「9」を
入力 するだけでも印刷できます。

ＭＤ電卓

この電卓は、普通の電卓を独立したソフトとして付属させたものですので、
ＭＤ電卓のみをショート カット作成してデスクトップなどに貼り付けることもできます。

■ ＭＤ電卓

普通の電卓です。
数字キーからの入力もできます。
上部のボタンから次の「日数計算」と「関数・数式電卓」を呼出できます。

■ 日数計算

起算日と計算日の入力で日数を計算します。
元号表示・十二支・曜日・満年齢なども計算表示されます。
また、「この日から何日後は何年何月何日か」を計算する経過日数計算もできます。

入力は西暦・元号（Ｈ）のどちらでも可能です。

■ 関数・数式計算

関数電卓として使用できます。
数式電卓として、あるいは変数入力計算もできます。
例えば、Ａ＝56*5/（Ｄ+8 ^ （-2））　　Ｄ＝123/Sqr(8)
などという複雑な変数での計算式で入力・計算を行います。
関数や演算子記号と変数を混合して使用できます。
変数はＡ～Ｚまで使用でき、変数の中にさらに変数を設定できます。

さらに、変数や計算式を保存・読込もできるものです。

MDタイマーsx

MDタイマーとは

MD＝Mr．Dragon　の作成したタイマーソフトです。
いろいろのニーズに対応した、多機能タイマーソフトです。

●機能一覧

１．お知らせアラーム-------時間指定で様々な音でのアラームでお知らせします。
２．カウントダウン　　-------時間を指定して、カウントダウンします。
３．ストップウォッチ　-------普通のストップウォッチです。
４．時間経過計算　　-------経過した時間を計算し、累計加算計算もします。

インストール要領

インストールは次の２通りのいずれかの方法で行います。

● フルパック版でのインストール

ランタイム付き版です。
最初のインストールでは、この版でインストールします。
ランタイム付きですので非常にサイズは大きくなっています。

インストール方法
エクスプローラなどでインストール作業を行います。

1.ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに置いて解凍します。
2.解凍展開されたファイルの内、「Setup.exe」のファイルをダブルクリックするとインストールが始 まります。

画面の指示通り進めます。

※再度フルパック版でインストールする場合
　最初ではなく、２回目以降も同じくこのフルパック版でインストールする場合は、
　前のバージョン分をコントロールパネルの「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」で一度このソフト全部を
　削除してから改めて、
　新バージョンでインストールして下さい。
　そのままインストールしてもソフト本体が新バージョンに書き変わらない場合があります。

● ランタイム無し版でのインストール

ランタイム無しで、ソフト本体とヘルプファイルと付属のソフト本体のみのパックです。
本体だけですのでパックのサイズは小さくて済みます。
２回目以降は、このランタイム無し版で、ソフトのみの差し替えでインストールします。

■ インストール方法
エクスプローラなどでインストール作業を行います。

1.ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに置いて解凍します。
2.解凍展開されたファイルの全てを前のバージョンのソフトと差し替え(上書き)します。

　　ソフト所在のフォルダは通常下記フォルダになります。
　　C:¥ﾛｰﾝﾏｽﾀｰ金利引き直し計算¥

インストールのエラ ー

■インストールでエラーが出る場合の処置方法

●「フルパック版」をセットアップするときに 「Path or File not Found」 と
エラー表示されてインストールできない。

Windows XP 等で、管理者ユーザーＩＤに漢字などの全角文字が
含まれている場合にエラーになることがあります。
「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」で確認して下さい。

対処法
「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」で、ユーザーＩＤを
もう一つ、半角の英数字で作ります。
一度パソコンを終了して、再度立ち上げ時に新しく作った半角英数字の
ユーザーＩＤでログインします。
他の常駐などの裏で動いているアプリケーションは全て終了して、
その状態でセットアップを開始します。
その後は新しいユーザーＩＤは削除をしても良いでしょう。

●前バージョンから新バージョンへインストール差し替えができない

既に同じソフトの前バージョンなどがインストールされていて、
そのままインストールした場合に起きることがあります。

対処法
今入っている前バージョンのソフトを一度
「ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ」-「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」で、削除して下さい。
その後に改めてフルパック版をインストールします。

サポート

下記メールのみにてサポートします。
但し、サポートは作者に可能な範囲でのサポートとなります。
対応できない場合もありますので、ご了承下さい。
また、下記注意事項にある見解の相違による計算方法の違いに対するサポートは原則的にできませ ん。

メールアドレス：　monsh@msi.biglobe.ne.jp

注意事項

当ソフトでの計算や表示形式は、地域や会社等により適さない場合があります。
例えば、貸付日算入の場合の期間日数表示方法や過払い時の計算、あるいは、
期間末日が休日の場合の日数と日付の表示等その他にも、その見解や環境により、さまざまな形態が考えられます。
また特に利息制限法については、本来、貸付元本に対応する利率となっていますが、カード・キャッシング・ローン等
追加貸付にも対応する為に、当ソフトでは、最高元本残高に対応するか、つど前元本残に対して利率対応するかの選択としています。
また、融資返済計算においても一般的な計算方法としています。
以上の例を含み、このソフトの計算方法が適さない場合がありますので、ご確認の上、ご使用下さい。
当ソフトをご購入の際は、よく計算内容を吟味確認し、ご納得承認の上でご購入下さい。

※　尚、当ソフトに関して生じた問題について、作者は一切責任を負いません。

コピー

「コピー」ボタンでは、クリップボードコピーができますので、
そのまま、他のソフト（表計算ソフトなど）に貼り付けすることができます。

ランタイム

ソフトは本体だけでは動きません。
このソフトを動かすソフトが必要です。それがランタイムファイルです。
このソフトは、VisualBasic６．０のランタイムファイルが必要です。

金利変更

例えば、金利変更日を 2002/07/01 とすると、展開計算上では**前日の 2002/06/30が自動的に入り**、
2002/06/30　で一度区切りをつけて、それまでの年率での金利を計算します。
変更後の新年率では、2002/07/01 を含み、それ以降の計算をします。

銀行営業日

休日は、１月1～3日、土・日曜日、祝祭日、
春分・秋分の日計算対応。
2000年以降の成人の日・体育の日（第二月曜日）も対応しています

過払い

計算結果上で、最終的に元本残高がマイナスになると、それは過払いと見なすことができます。
利息制限法を対応せずに契約上の年率での計算では、元本残高がプラスとして存在しても、
利息制限法を対応して計算すると、既に完済して、過払いになっていることがあります。
その場合は、表の一番右側に「過払分損害金」として、マイナスとして計算されます。
また、画面下に「過払金額」として、その合計金額が表示されます。
計算結果画面の上部の「利息制限法対応」をチェックすると、すぐに計算されますので、お試し下さい。

過払い金額に対する損害金計算

基本項目入力において、「過払金に対する損害金」で年率を入力すると、
元本残高がマイナスになる都度に、マイナスとして、その年率で過払分損害金として計算表示されます。
その場合、計算結果における年率（%）表示は、この過払金に対する損害金の年率が表示されます。
ここで、過払金に対する損害金年率にゼロを入力（初期設定はゼロ）あるいは、何も入力しなければ、損害金は計算されません。
前元本残高がプラスであれば、計算結果における年率(%)表示は、当初の金利年率あるいは法定金利や遅延損害金年率などになります。

計算例：

NO	日 付	貸付金額	返済金額	期間日数(日)	年率(%)	金 利損害金発生額	金 利損害金充当額	未払金利損害金累 計	元 本充当額	元本残高	過払分損害金
1	平成19年01月20日	100,000		1	18.00	49	0	49		100,000	0
2	平成19年02月27日		300,000	38	18.00	1,873	1,922	0	298,078	-198,078	0
3	平成19年03月01日	250,000		2	18.00	123	0	123		51,922	-54
4	平成19年03月27日		100,000	26	18.00	665	788	0	99,212	-47,290	0
5	平成19年03月31日	150,000		4	18.00	73	0	73		102,710	-25
6	平成19年04月27日		170,000	27	18.00	1,367	1,440	0	168,560	-65,850	0
7	平成19年05月27日		80,000	30	5.00	0	0	0	80,000	-145,850	-270
8	平成19年06月20日	180,000		24	18.00	88	0	88		34,150	-479
9	平成19年06月27日		50,000	7	18.00	117	205	0	49,795	-15,645	0
10	平成19年07月27日		40,000	30	5.00	0	0	0	40,000	-55,645	-64
11	平成19年09月20日	最終計算日	0	55	5.00	0	0	0	0	-55,645	-419
合 計 ：		680,000	740,000			4,355	4,355		735,645		-1,311
請求金額：								0		-55,645	

契約の約定での金利　実質年率：法定金利 %　　過払金額：55,645 円
遅延損害金年率：14.60 %　　請求金額合計：-56,956 円

メニューへ　リセット　入力画面へ　終了

元利均等払の返済計算

目次へ

特長

１．融資実行日から返済日までの初回日割り計算も詳細に計算されます。
２．ボーナス払は６ヶ月間に限らず、夏冬の自由なボーナス月での組み合わせで計算できます。
３．都度の試算が一枚の紙に数通り印刷できます。
４．ボーナスオンリーでの計算もできます。（年賦・半年賦）
５．詳細な元利展開表が表示され、そのまま印刷されたものは償還表としても活用できます。
６．ファイル保存できますので、後で呼び出して再加工もできます。

操作要領

１．各項目へ入力しエンターキーを押すと、確定して次の項目へ進みます。

２．各項目を入力終了したら、「計算」ボタンで計算され、結果表示されます。

３．「印刷貼付指示」ボタンで今試算した内容を印刷用意させます。
（ここではまだ印刷はされませ ん）
次の別のパターンの試算内容で再び.「印刷貼付指示」ボタンで印刷指示します。
ここで「印刷出力指示」ボタンで初めて、今まで印刷指示した試算内容が一枚の紙に
印刷されま す。

４．「元利展開表」ボタンで、展開表に画面が変わります。
ここでの印刷は元利展開一覧表が印刷されますので、これがそのまま償還表としても
活用できま す。
「コピー」ボタンは一覧表をクリップボードコピーできますので、そのまま他の
ＥＸＣＥＬなどの表計算ソフトなどに貼付することができます。

５．ファイルを保存できます。拡張子は「＊．LM1」です。

ボーナスオンリー払の操作要領

半年賦

１．支払回数は、ボーナス回数ではなく、毎月分の回数で、ボーナス最終分の年月までの期間（月 数）です。
入力時では、何ヶ月になるかは不明の場合がありますので、多めの回数を入力します。
わからなければ３００回などの回数を入力しておけば、自動的に回数は割り出されます。
例：通常ボーナス回数が１０回であれば、５年分の月数６０回や余裕をもって１００回と入力してもかまいません。計算で自動的に回数（月数）を割り出します。

２．初回支払日は毎月分の初回という意味となりますので、実行日の翌月の日付を入力します。

３．ボーナス回数を入力します。

４．ボーナス初回年月を入力します。

５．ボーナス２回目の月だけを入力します。
このボーナス２回目の月を初回の月と同じ月を入力すると、それは年賦の扱い　になります。

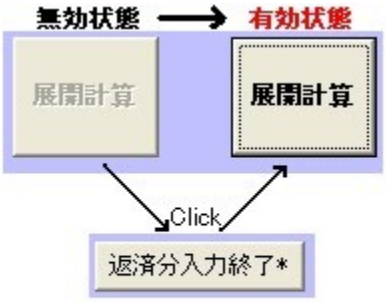
年賦

半年賦と同様ですが、ボーナス２回目の月を初回の月と同じに入力すると、年賦の計算となります。
ボーナス回数などに注意して入力します。

展開計算

金利引き直しの展開計算は、この「展開計算」ボタンをクリックすると、
それまでの条件によって、再計算されて、次の「計算結果」画面へ移ります。

注意点：
「計算結果」画面から、年率や金額などの入力画面に戻って、それらの訂正などを行うと、
この「展開計算」ボタンは無効状態（「展開」計算」の文字が薄くなり、ボタンが無効の状態）にな りますが、
「返済分入力終了」ボタンをクリックすると、「展開計算」ボタンは有効状態になり、
「展開計算」ボ タンをクリックすると、再計算されて、次の「計算結果」画面へ移ります。



「返済分入力終了」ボタンをクリックすると、
「展開計算」ボタンが**有効状態**になる。